

株主・投資家の皆様へ

LINTEC

WAVE

リンテックウェーブ

*Linking
your
dreams*

SEPTEMBER 2022

88

● 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

● スペシャルレポート

リンテックの北米ラベル関連事業

第129期
(2023年3月期)
第1四半期
決算情報

証券コード：7966



つたぬま

鳥沼（青森県）

とわだはちまんたい

十和田八幡平国立公園内、十和田湖から北に10kmほど離れたところに点在する湖沼群の一つ。秋には、朝日に照らされたブナの紅葉が湖面に映り、燃えるような赤色に包まれる。

目次

2 連結業績推移

3 株主・投資家の皆様へ

代表取締役社長
社長執行役員

服部 真

4 スペシャルレポート

リンテックの北米ラベル関連事業

8 FRONT LINE

9 2022年度 新聞広告シリーズ

10 決算情報

12 セグメント情報

15 株式情報

※前連結会計年度において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間に係る連結経営成績の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

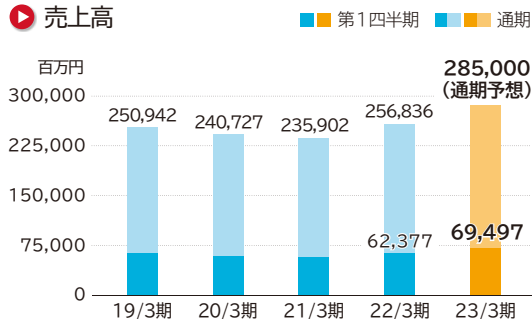
※当第1四半期連結会計期間において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る連結財政状態の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

（免責事項）

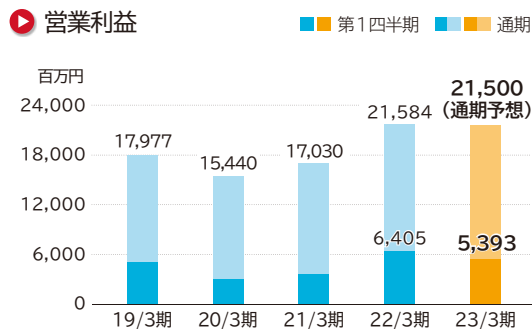
業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

連結業績推移

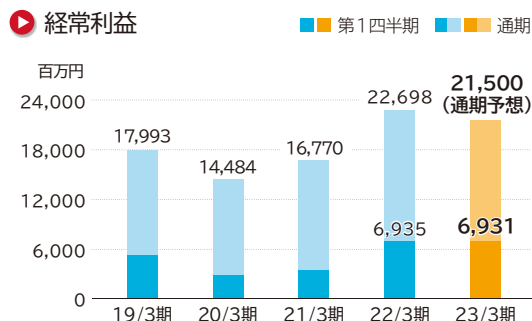
売上高



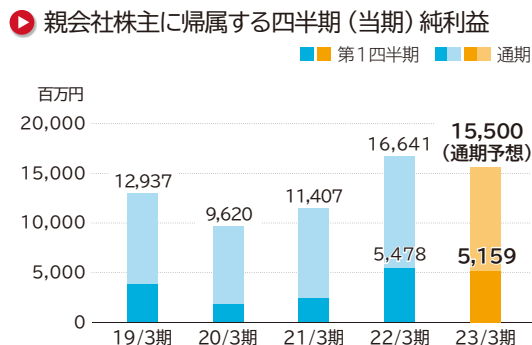
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



株主・投資家の皆様へ

▶ 2023年3月期第1四半期連結累計期間(前年同期比)

売上高

69,497 百万円 (11.4%増)

営業利益

5,393 百万円 (15.8%減)

経常利益

6,931 百万円 (0.1%減)

親会社株主に帰属する四半期純利益

5,159 百万円 (5.8%減)

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの2023年3月期第1四半期連結累計期間の業績は、今年2月に米国の粘着製品メーカーの事業を譲り受けて新たに設立したスピネカー社が加わったことや円安効果などによって売上高は増加したものの、利益面ではパルプをはじめとする原燃料価格や物流コスト上昇の影響を大きく受け、上記のとおり増収減益となりました。

▶ 2023年3月期 連結業績予想(前期比)

売上高	2,850億円 (11.0%増)
営業利益	215億円 (0.4%減)
経常利益	215億円 (5.3%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	155億円 (6.9%減)



今後につきましては、原燃料価格のさらなる高騰やコロナ禍に伴う経済活動の減速も懸念されるなど、厳しい事業環境が続くものと予想されます。そのような中、徹底的なコストの削減や生産性の向上、価格改定などに取り組み、中期経営計画「LSV 2030-Stage 1」の経営目標達成を全社一丸となって目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

▶ 「LSV 2030-Stage 1」2024年3月期 経営目標

売上高	3,000億円
営業利益	240億円
親会社株主に帰属する当期純利益	170億円
売上高営業利益率	8%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	8%以上

リンテックの北米ラベル関連事業

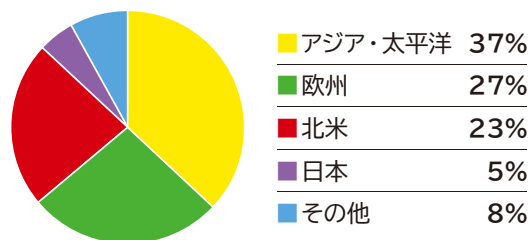
シール・ラベル用粘着製品の国内リーディングカンパニーである当社では、海外での事業拡大を加速させています。特に近年では、北米市場において米国子会社のマックタック・アメリカ社の生産能力や販売力の拡充を推進。今号では、当社グループの成長の鍵を握る北米ラベル関連事業についてご紹介します。

安定成長を続ける北米市場

世界の粘着ラベル市場において、北米市場は出荷量で約23%のシェアを占めており、アジア・太平洋地域や欧州に次いで3番目に大きな市場規模となります。その

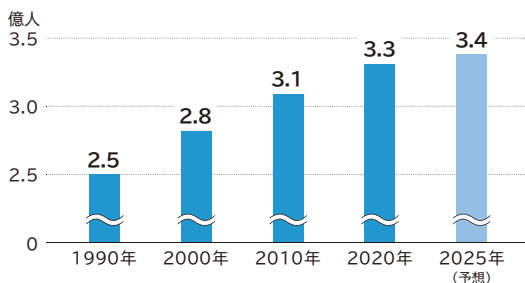
中心となる米国は先進国の中でも人口が増加し続けていることもあり、今後も北米の粘着ラベル市場は年率3%以上の安定成長が続くと見込まれています。

世界の粘着ラベル出荷量 地域別構成比(2020年)



出所：日本のラベル市場2022(ラベル新聞社)

米国の人口推移



出所：IMF(国際通貨基金)

北米市場で確固たる地位を築いているマックタック・アメリカ社

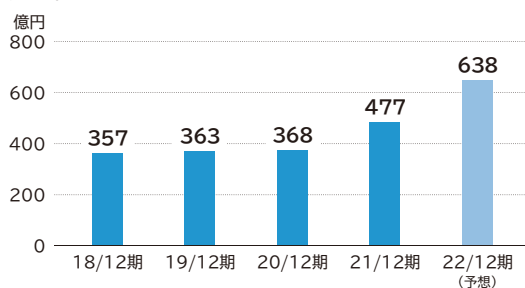
当社グループでは1980年代以降、アジア地域を中心に海外におけるラベル関連事業を拡大させてきましたが、2016年12月にマックタック・アメリカ社を買収したことで、北米市場への本格参入を果たしました。同社はシール・ラベル用粘着紙・粘着フィルムメーカーで、壁面などの装飾用グラフィックフィルムや各種工業用・医療用テープの製造・販売も行っています。米国だけでなくメキシコにも生産拠点を構え、広大な北米市場全域をカバーする販売・裁断出荷体制を整備。1,000社を超える顧客に充実したサービスを提供しており、北米市場において確固たる地位を築いています。

また同社は、これまで当社グループにはなかったホットメルト粘着剤の優れた処方技術や高速塗工設備などを有しています。この粘着剤は環境への負荷が少なく、冷凍・結露面や粗面といった貼り付けが難しい対象物に対しても強力な粘着力を発揮するのが特徴で、現在、日本国内をはじめ東南アジアや欧州市場においても同社製品の拡販を進めています。さらに日本からスタッフを派遣して、当社の高付加価値フィルム製品を北米市場で積極的に展開しています。



会社名：マックタック・アメリカ社
所在地：米国・オハイオ州
従業員数：763人(2021年12月末現在)
売上高：477億円(2021年12月期)
事業内容：シール・ラベル用粘着製品、グラフィックフィルムなどの製造・販売

売上高



マックタック・アメリカ社のシール・ラベル用粘着製品



北米市場でも好評を得ているリンテックの油面用ラベル素材

相次ぐ買収により事業基盤を拡大

当社グループでは、米国の経済成長に伴うラベル関連市場の需要が増加する中、マックタック・アメリカ社の生産能力の増強を図ることを目的に、2021年4月に米国の粘着製品メーカーであるデュラマーク社を買収。さらに今年2月には同業メーカー

の事業を譲り受け、スピネカー社を設立してマックタックグループに加えるなど、北米市場での積極的な投資を行ってきました。これらにより同グループの北米市場におけるシェアは大幅に上昇し、今後もさらなる拡大を目指していきます。



旧デュラマーク社 ※2021年12月、マックタック・アメリカ社の子会社に統合

フィルムタイプのシール・ラベル用粘着製品を中心にさまざまな粘着剤処方や高速塗工に対応した最新鋭の生産設備を有していることに加え、グラフィックフィルムなどの一貫生産体制を整えています。同社の買収により、マックタックグループの生産能力が大幅に増強されたほか、生産を集約・効率化することで最適な生産体制を確立しました。



スピネカー社

多品種・少量生産に対応した各種シール・ラベル用粘着製品を製造・販売しています。特に中小規模の顧客へのきめ細かなサービスや幅広い品ぞろえが強みで、汎用タイプのシール・ラベル用粘着製品を大量生産するマックタック・アメリカ社とは異なるサービスモデルを展開することから、グループとしての市場対応力が一段と強化されました。



FOCUS

ホットメルト粘着剤を使用したシール・ラベル用粘着製品

ホットメルト粘着剤は熱で溶かして塗工する粘着剤で、塗工時に有機溶剤で希釈する必要がないため、溶剤を使う粘着剤と比べて環境負荷が小さいのが特徴です。マックタック・アメリカ社のホットメルト製品の中では、低温環境でも優れた粘着力を発揮し、マイナス20℃でも貼付できる「CHILL AT」シリーズチル エーティーが多くの顧客から好評を得ており、冷凍保存される商品などの表示ラベルとして国内外で拡販を図っています。



凍っている対象物にもしっかりと貼付可能

INTERVIEW

米国の地域統括会社であるリンテック・USAホールディング社のトップに、今後の北米におけるラベル関連事業の展望などについて聞きました。

米国経済は日本同様にコロナ禍による行動制限で一時的に低迷しましたが、昨年からは回復基調となり、ラベル関連市場の需要も順調に推移しています。そのような中で、最新鋭の量産設備を持つ旧デュラマーク社やマックタック・アメリカ社とは異なる分野で強みを発揮するスピネカー社をグループに迎えられたことは、今後の事業拡大に向けて非常に大きな意味があります。マックタック・アメリカ社は2016年の買収以降、営業赤字が続いていますが、これは2026年度まで買収に伴うのれん償却負担があるためで、実質的には安定した事業採算性を持っています。足元の状況は原燃料価格の高騰などで厳しい経営環境ではありますが、今般2社がグループに加わった効果は確実に出てきており、生産設備の最適化や生産性の向上を図ることで収益性を高め、早期にのれん償却後の営業黒字化を目指していきます。



リンテック・USAホールディング社
社長

ので かずよし
野出 和義

フ ロ ン ト ラ イ ン FRONT LINE

— 最前線 —

各現場の最前線で活躍中の社員を紹介する当コーナー。今回は、米国のグループ会社に赴任し、シール・ラベル用粘着製品の拡販に努める事業開発マネジャーをご紹介します。



リンテック・USA
ホールディング社

あらき かつひろ
荒木 勝寛

2005年に入社。印刷・情報材事業部門でラベル印刷機の拡販に従事した後、技術・開発室にてシール・ラベル用粘着製品の技術営業などを担当。2018年6月より同社に外向。

Q 現在の仕事について教えてください。

主にリンテック製品の北米顧客への拡販を担当しており、日々の営業活動に加えて材料の受発注から在庫管理、技術支援、現地スタッフの教育、展示会での販促活動まで業務は多岐にわたります。さまざまな高付加価値製品を提案していますが、特に油面用ラベル素材の反響が大きいですね。そのほか、マックタック製品の海外展開にも携わっています。



油面用ラベル素材

通常は貼ることが難しい油が付着した面に対しても、特殊粘着剤層が油を吸い取り、しっかりと貼付できます。自動車部品などの工業用途で使用され、油をふき取る必要がないため、作業効率の向上に大きく貢献します。

Q 日本と北米のラベル市場ではどのような違いがありますか。

日本では品質や機能などが重視される傾向にありますが、加えて北米では必要なものをすぐに納品すること、つまりスピードや効率が求められます。また、コロナ禍で従来のような訪問営業ができなくなった時に、メール広告やウェブ会議などを積極的に活用してお客様との接点を維持するなど、環境変化への社内の対応の速さにも驚きました。

Q 今後の目標や新たに取り組みたいことなどを教えてください。



昨年の旧デュラマーク社の買収、そして今年のスピネカー社の設立によってマックタックグループの生産能力や販売網などが大幅に強化されたことを受け、北米でのリンテック製品の拡販、さらにはマックタック製品のグローバル展開を一層推進していきたいと考えています。日米双方の良さを学び、それを生かすことで、マックタックグループのメンバーと共にリンテックの成長に貢献していきます。



2022年度 新聞広告シリーズ リンテック みっけ！

あなたの身近なところに、リンテックテクノロジー。

持続可能な社会の実現に向けて、リンテックはさまざまな製品や技術を生み出しています。皆様の“暮らしの中で活躍するリンテック”を好奇心旺盛な黒猫と一緒に見つける広告シリーズです。

【掲載紙】

日本経済新聞、読賣新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、北海道新聞、中日新聞、中国新聞、西日本新聞、上毛新聞、神戸新聞、愛媛新聞、日刊工業新聞、化学工業日報

リンテック
みっけ！

車の窓に貼って日射熱を遮り
冷房効率を高める省エネフィルム
リンテック株式会社

7月 掲載広告

リンテックでは自動車の窓ガラスに貼るだけで日射熱を遮り、車内の温度上昇を抑制する窓用フィルムを幅広く展開しています。目隠し効果のある濃色タイプや車内外からの視認性と採光性を保つ高透明タイプなどを取りそろえ、夏場の省エネルギーに貢献します。



リンテック
みっけ！

回収された瓶の再使用を促進する
洗浄工程で割れやすいラベル素材
リンテック株式会社

8月 掲載広告

回収して繰り返し使用される生酒などの飲料瓶にもリンテックのラベル素材が使われています。使用時は水にぬれても剥がれず、回収した瓶を洗浄する際には簡単に溶けたり、剥がれたりする設計となっています。剥がす手間を軽減し、瓶の再使用を促進するラベル素材です。



リンテック
みっけ！

窓ガラスが割れても破片の飛散を
抑制する防弾対策フィルム
リンテック株式会社

9月 掲載広告

建物でもリンテックの窓用フィルムが活躍しています。フィルムを貼ることで地震や台風などでガラスが割れても、破片の飛散を抑制する効果を発揮。ガラス飛散防止対策性能の国家規格制定にも携わった高い技術力と豊富な実績が製品の信頼性につながっています。

製品の詳細は右記の二次元コードから
ウェブサイトにて御覧いただけます。

DREAM FACTORY
www.lintec.co.jp/dream/ad



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結会計期間	前連結 会計年度
流動資産	180,475	182,224
固定資産	123,389	120,640
① 資産合計	303,865	302,865
流動負債	69,451	72,382
固定負債	20,249	20,724
② 負債合計	89,701	93,107
③ 純資産合計	214,164	209,758
負債純資産合計	303,865	302,865

四半期連結損益計算書及び 四半期連結包括利益計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
④ 売上高	69,497	62,377
売上総利益	17,062	17,055
販売費及び 一般管理費	11,668	10,649
⑤ 営業利益	5,393	6,405
経常利益	6,931	6,935
税金等調整前 四半期純利益	6,931	7,232
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,159	5,478
四半期包括利益	10,700	10,146

■ ポイント！

① 資産合計

自己株式の取得などにより「現金及び預金」が減少しましたが、「棚卸資産」や成長分野への積極投資による「有形固定資産」の増加などにより、総資産は10億円増加しました。

② 負債合計

調達コストの上昇などにより「支払手形及び買掛金」が増加しましたが「未払法人税等」などが減少したことにより、負債は34億6百万円減少しました。

③ 純資産合計

自己株式の取得などによる減少がありましたが、円安の進行により「為替換算調整勘定」などが増加したことにより、純資産は44億6百万円増加しました。

④ 売上高

米国での企業・事業買収の効果などで印刷・情報材事業部門が大幅に増加したことなどにより、売上高は71億19百万円増加しました。

⑤ 営業利益

円安による増益効果はありましたが、原燃料価格や物流コストの上昇などの影響を大きく受け、営業利益は10億12百万円減少しました。

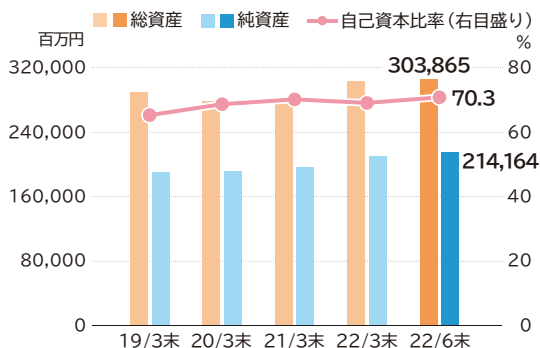
⑥ 親会社株主に帰属する 四半期純利益

円安の進行により為替差益が大幅に増加しましたが、営業利益の減少や前年同期に買収に伴う特別利益を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億18百万円減少しました。

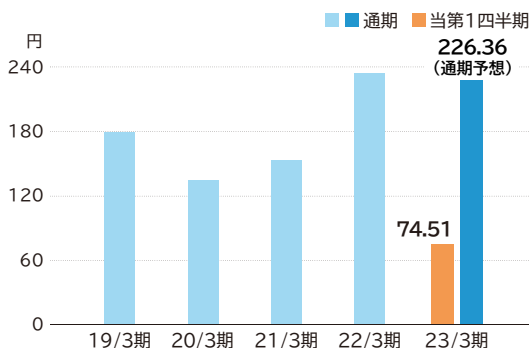
四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)	当第1四半期 連結累計期間	前第1四半期 連結累計期間
営業活動による キャッシュ・フロー	460	7,684
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,830	△8,104
財務活動による キャッシュ・フロー	△7,218	△3,587
現金及び現金同等物の 四半期末残高	42,453	55,257

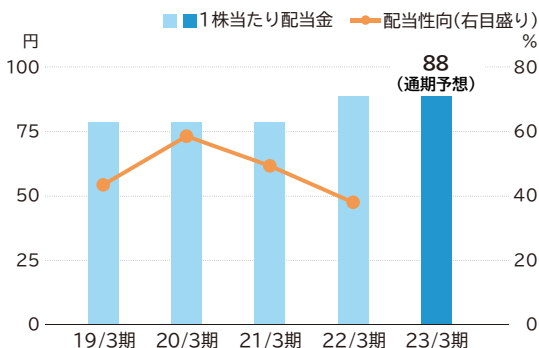
総資産・純資産・自己資本比率



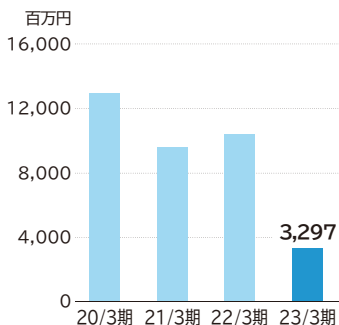
1株当たり四半期(当期)純利益



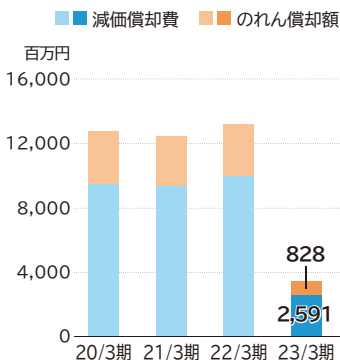
1株当たり配当金・配当性向



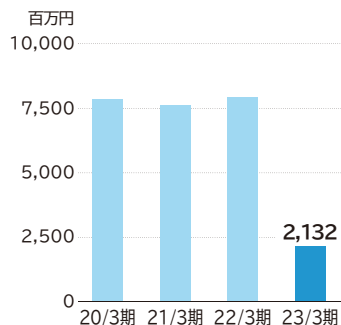
設備投資額



減価償却費・のれん償却額



研究開発費



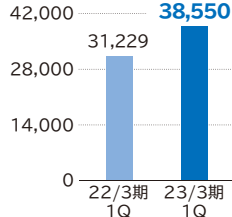
印刷材・産業工材関連

売上高 **385億50**百万円 (23.4%増)

営業利益 **3億82**百万円 (49.4%減)

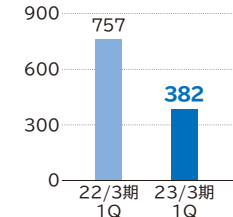
売上高

百万円



営業利益

百万円



印刷・情報材事業部門

売上高 **311億29**百万円 (32.3%増)

主要製品

- シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム
- バーコードラベル用粘着紙・粘着フィルム



産業工材事業部門

売上高 **74億20**百万円 (3.6%減)

主要製品

- 自動車用粘着製品
- 工業用粘着テープ
- ラベリングマシン
- ウィンドーフィルム
- 屋外看板・広告用フィルム
- 内装用化粧フィルム



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

印刷・情報材事業部門はシール・ラベル用粘着製品が国内ではペットボトル用ラベルや各種環境配慮製品で新規採用が進んだほか、宅配・物流関連の需要が増加したことなどにより堅調に推移し、海外では米国における買収効果もあったことから、大きな伸長となりました。

産業工材事業部門はウィンドーフィルムや自動車用粘着製品が海外で堅調に推移しましたが、国内では自動車の減産影響を受けて需要が低迷し、減少となりました。

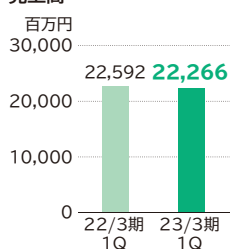
セグメント営業利益は原燃料価格や物流コストの上昇などの影響を大きく受け、前年同期に比べ減少しました。

電子・光学関連

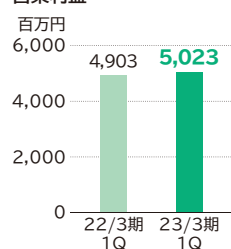
売上高 **222億66**百万円 (1.4%減)

営業利益 **50億23**百万円 (2.4%増)

売上高



営業利益

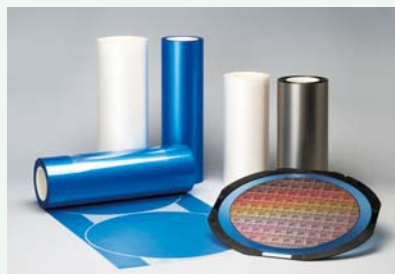


アドバンストマテリアルズ事業部門

売上高 **164億74**百万円 (2.0%減)

主要製品

- 半導体関連粘着テープ
- 半導体関連装置
- 積層セラミックコンデンサ関連テープ



オプティカル材事業部門

売上高 **57億92**百万円 (0.3%増)

主要製品

- 偏光フィルム／粘着加工
- タッチパネル関連製品



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

アドバンストマテリアルズ事業部門は半導体関連粘着テープや関連装置は堅調に推移したものの、積層セラミックコンデンサ関連テープがスマートフォン用の需要低迷や自動車の減産影響を受け、低調に推移しました。

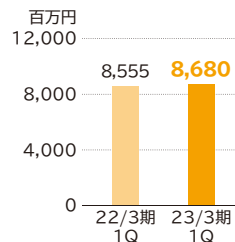
オプティカル材事業部門は光学ディスプレイ関連粘着製品が大型テレビやスマートフォン用などの需要低迷の影響を受けたものの、車載用タッチパネル関連製品が伸長し、前年同期並みとなりました。

セグメント営業利益は製品構成の改善などにより、前年同期に比べ増加しました。

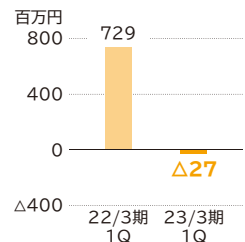
洋紙・加工材関連

売上高 **86億80**百万円 (1.5%増)営業利益 **△27**百万円 (－)

売上高



営業利益



洋紙事業部門

売上高 **40億36**百万円 (0.5%減)

主要製品

- カラー封筒用紙
- 色画用紙
- 特殊機能紙
- 高級印刷用紙
- 建材用紙



加工材事業部門

売上高 **46億43**百万円 (3.2%増)

主要製品

- 粘着製品用剥離紙
- 光学関連製品用剥離フィルム
- 合成皮革用工程紙
- 炭素繊維複合材料用工程紙



事業部門別の売上高とセグメント営業利益の概況

洋紙事業部門はカラー封筒用紙が前年同期並みとなったほか、耐油耐水紙がテイクアウト需要の増加などにより堅調に推移しましたが、工業用特殊紙の中国向け需要が減少したことなどにより、低調に推移しました。

加工材事業部門は合成皮革用工程紙が国内外で自動車の減産影響を受けて需要が低迷しましたが、一般粘着製品用および電子材料用剥離紙が堅調に推移したほか、炭素繊維複合材料用工程紙もスポーツ・レジャー用の需要が順調に推移したことなどにより、増加となりました。

セグメント営業利益はパルプを中心とした原燃料価格の上昇などの影響を大きく受け、営業損失となりました。

株式情報 (2022年6月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数 (ただし自己株式を除く)	68,624,941株
単元株式数	100株
株主数	6,849人

自己株式の取得終了のお知らせ

2021年11月8日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得を終了しましたので、お知らせいたします。

(1) 取得した株式の総数	4,000,000株
(2) 取得価額の総額	10,092,664,800円
(3) 取得期間	2021年11月9日～2022年7月19日

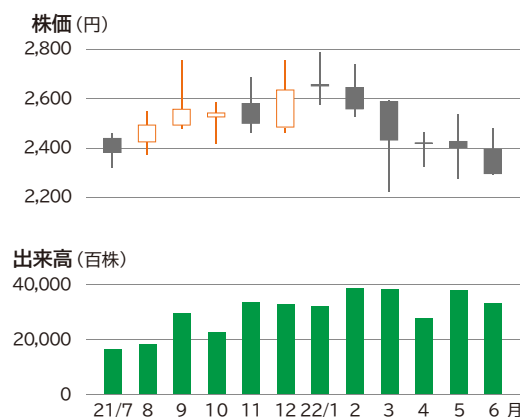
大株主の状況 (上位10位)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本製紙株式会社	21,293	31.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,160	10.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	3,763	5.48
全国共済農業協同組合連合会	2,522	3.67
庄司 たみ江	1,796	2.61
株式会社かんぽ生命保険	1,420	2.06
リンテック従業員持株会	1,173	1.70
塩飽 恵以子	1,043	1.52
塩飽 一誉子	803	1.17
庄司 早木子	797	1.16
庄司 光江	797	1.16

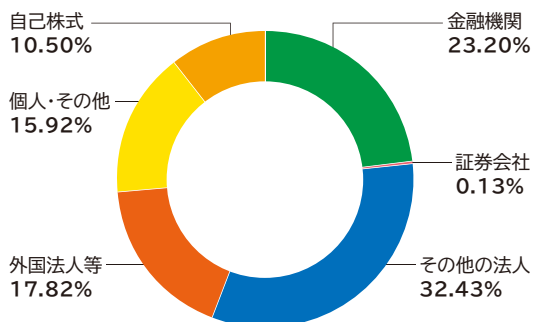
注1. 当社は自己株式8,051,499株を保有しておりますが、上記表からは除外しております。

注2. 持株比率の算定に当たっては、自己株式を控除して計算しております。

株価および出来高の推移 (2021年7月～2022年6月)



所有者別分布比率



会社概要 (2022年6月30日現在)

社名	リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)
本社設立	東京都板橋区本町23-23 1934年10月15日
資本金	233億4,159万6,911円
上場	東京証券取引所プライム市場
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	連結: 5,158人 単体: 2,628人 (2022年3月31日現在)
事業所	営業拠点: 東京、札幌、名古屋、大阪、福岡など全国11か所 生産拠点: 吾妻 (群馬県)、熊谷・伊奈 (埼玉県)、千葉 (千葉県)、 龍野・新宮 (兵庫県)、小松島 (徳島県)、三島・土居・新居浜 (愛媛県) 研究拠点: 蕨・さいたま (埼玉県) 海外事務所: ハノイ (ベトナム)
連結子会社	国内: 3社 海外: 39社

株主メモ

定時株主総会	6月
配当基準日	期末: 3月31日 中間: 9月30日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・郵便物送付先	
・フリーダイヤル	☎ 0120-232-711
・ホームページアドレス	www.tr.mufg.jp/daikou

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に
口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座
管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて
株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

法定公告掲載ホームページアドレス
www.lintec.co.jp/ir/stock/koukoku.html



リンテック株式会社 *Linking your dreams*

● 本社 〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
URL www.lintec.co.jp

IRメール配信サービス のお知らせ



当社では新製品情報なども含め、
株主・投資家の皆様へさまざまな
ニュースを幅広くお届けするため、
IRメール配信サービスをご提供
しています。配信をご希望の方は、
当社IR情報サイトよりご登録を
お願いいたします。

www.lintec.co.jp/ir



※スマートフォンなどでこの二次元
コードを読み取ると、登録ページへ
簡単にアクセスできます。

社名の由来は、リンケージ(結合)とテクノロジー(技術)。ロゴマークは、地球を表す楕円
にLINTEC・LINKAGE(結合)・LOYALTY(誠実)の三つの「L」で表現したウエーブ(波)
を組み合わせでデザイン。世界を舞台に飛躍していこうという決意を込めています。



ユニバーサルデザイン(UD)の
考えに基づいた見やすいデザ
インの文字を採用しています。

発行 広報・IR室 2022年9月
TEL. (03) 5248-7741
FAX. (03) 5248-7754